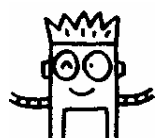


たかすぎしんさく 高杉晋作は、どんな人だったの



ちょうしゅうはん とうぱくろせん ばくふぐん
長州藩を倒幕路線にまとめて、幕府軍を破り、
江戸幕府がたおれるきっかけをつくった人だよ。

高杉晋作は1839年に、長州藩（山口県）萩城下の藩士の家に生まれました。藩校の明倫館、吉田松陰の松下村塾などで学び、1862年に藩の命令で、幕府の貿易視察団に加わり、清国（中国）の上海に行きました。この上海で、ヨーロッパ人に支配されている中国人のありさまを見て、外国の言いなりになっている幕府をたおし、外国人を追い払う決意を固めたようです。帰国後、伊藤俊輔（伊藤博文）・志道間多（井上馨）らとともに、品川御殿山（東京都品川区）に建設中のイギリス公使館を、焼き討ちしました。

きへいたい 奇兵隊をつくり、藩の政権を手に入れた

1863年に藩主から、下関を守る役目をまかされると、農民や町人も入隊できる奇兵隊をつくりました。その後、藩の内部で、幕府に従おうと主張する「俗論派」が勢力をもち、幕府をたおそうと主張する「正義派」への弾圧を始めると、九州にかくれましました。翌年、80人で兵をあげ、下関を占領すると、奇兵隊など多くの隊も加わり、「俗論派」藩政府の軍を破って、藩の政権を手に入れました。こうして長州藩の内部は、幕府をたおそうという倒幕路線にまとまったのです。

さっちょうどうめい 薩長同盟に成功し、幕府軍との戦いで活躍した

その後、幕府をたおすには、薩摩藩と手を結ぶことが必要だと考え、桂小五郎（木戸孝允）を京都に送って、薩摩藩の指導者の西郷隆盛と、薩長同盟を結ぶことに成功しました。1866年に幕府の第2次長州征伐が始まると、イギリスから買った蒸気艦で、幕府の軍艦を夜襲したり、関門海峡をわたって、門司の幕府軍を破ったりしました。しかし、結核が悪化し、翌年4月に下関で、大政奉還を見ないまま、29歳で亡くなりました。